

キャラクター名  
 彼者誰 圭一（かわたれ けいいち）

プレイヤー名

シンドローム	エンジェルハイロウ ソラリス	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	UGNエージェント
オプション	ノイマン	年齢	19	性別	男
覚醒	死	衝動	加虐	初期侵食率	33 %
出自	天涯孤独	経験	仲間の死	邂逅	理想

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	0	1			1	行動値	16
感覚	3	1	3			7	(非装備時)	16
精神	2	0	0			2	戦闘移動	21
社会	3	0	0			3	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4		RC	1		交渉		
回避			知覚	5		意志	3	1	調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
射出式スタンガン	射撃	7r+3		0		HPダメージを与えることで硬直付与。シーン1回まで使用可能
ラプラスの目	射撃	9r+4				《R:ソラリス》3+《完全抗体》2+《守りの弾》1
全てを賭けて-オールイン-	射撃	10r+4				《R:ソラリス》4+《完全抗体》3+《守りの弾》2

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ウェポンケース	
思い出の一品	
情報収集チーム	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
守護者-ガーディアン-P		N		
瑠花・オルランドP	尽力	N	不安	
仁科 始	P	信頼	N	不安
歩く死体	P	遺志	N	憤懣
九頭竜 鼎	P	信頼	N	憐憫
	P		N	
	P		N	

最大財産P: 8 残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
R:ソラリス	3	2	Reaction	至近	自身	-	-	
効果:	クリティカル値- (Lv)							
完全抗体	2	1	Reaction	至近	自身	対決	-	
効果:	ダイス+ (Lv)							
神の目	1	1	Reaction	至近	自身	対決	-	
効果:	《知覚》でドッジを行える							
攻撃誘導	2	3	Set Up	視界	単体	自動	-	
効果:	「彼者誰」を対象に含まない攻撃のダイス- (Lv*2)							
守りの弾	1	5	Auto	至近	自身	効果	-	
効果:	20m以内の攻撃を判定により打ち消す。行動済みになる。							
フラッシュゲイズ	2	3	Auto	視界	単体	自動	80	
効果:	判定のダイス- (Lv*2)							
鏡の中の人形	2	3	Auto	視界	単体	自動	-	
効果:	ドッジの判定を代行する。							
猟犬の鼻	1	-	Major	至近	自身	自動	-	
効果:	見えないものまで見える							
プロファイリング	1	-	Major	至近	自身	自動	-	
効果:	少しの情報から真実を暴き出す。							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「かわたれ けいいち」  
 ・一話目HO  
 ロイス:「少女」  
 推奨感情 P:庇護/N:不安  
 ワークス/カヴァー UGNエージェント/自由  
 あなたは本日から露ヶ原支部へ配属となった新米エージェントだ。支部長より変わったレネグイドビーイング(PC2)と相棒になり、お目付け役になるよう命じられる。PC2の提案によりあなたはパトロールに出ることとなった。そこであなたはとある少女を保護することになる。

・二話目HO  
 ロイス:「歩く死体」  
 推奨感情 P:遺志/N:憤懣  
 ワークス/カヴァー UGNエージェント/自由  
 あなたは露ヶ原支部への新米エージェントだ。相棒はPC2。  
 瑠花・オルランドの一件から半年。あなたは小さな心の傷を抱えながらも、自身の今なすべきことと向き合いながら前向きに生きている。  
 巷でひそかにささやかれている、歩く死体事件。あなたはその事件を解明するためにも今日も相棒と街へ繰り出した。

・セリフ例  
 一人称:オレ  
 「このくらいならオレに任せてください！大丈夫ですよ！この前、に教えてもらったんですから！……あっ、あれえ！？」  
 「きっと、一回人を殴ると、もう一回人を殴りたくなるんです。だから、オレはこの「やり方」を磨いてきたんです。」